

スコアシート		竣工段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
0 建築物の環境品質								3.6
Q1 室内環境								3.4
1 音環境				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策				-	-	-	-	
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				3.0	0.30	3.0	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.30	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20	3.0	-	
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境				3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.60	3.0	-	
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能				3.0	0.40	3.0	-	
4 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				3.3	0.25	-	-	3.3
3.1 昼光利用				2.8	0.30	-	-	
1 昼光率				2.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口				-	-	5.0	-	
3 昼光利用設備				4.0	0.40	3.0	-	
トブライト+吹抜けの設置				-	-	-	-	
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御				4.0	1.00	3.0	-	
3 映り込み対策				-	-	-	-	
庇+ブラインドの設置				-	-	-	-	
3.3 照度				4.0	0.15	3.0	-	
500lx				3.0	0.25	3.0	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境				4.4	0.25	-	-	4.4
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質				5.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ケーブル等				-	-	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
全内装材に を採用し、学校教育法の規制値以下とした				-	-	-	-	
4.2 換気				3.3	0.30	-	-	
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能				4.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-	
4 結露計画				-	-	-	-	
人の滞在時間の長い研究室において窓開閉により室床面積の1/15以上の開口を確保。				-	-	-	-	
4.3 運用管理				4.5	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				4.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御				5.0	0.50	-	-	
ビル管理法に基づく管理マニュアル 全館禁煙				-	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	4.0
1 機能性				4.6	0.40	-	-	4.6
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画				4.0	1.00	-	-	
神奈川県みんなのバリアフリーまちづくり条例、バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準に適合				-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観				5.0	0.50	3.0	-	
2 リフレッシュスペース				5.0	-	-	-	
3 内装計画				5.0	0.50	-	-	
CGパース等シミュレーションの実施。理学部の先進性を感じる内装色彩の採用と、室用途に応じた照明の色温度を設定。				-	-	-	-	
1.3 維持管理				5.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				5.0	0.50	-	-	
清掃性に配慮した各部納まり、外壁窓清掃、外壁点検を容易に行えるメンテナンスの設置、配管の屋外化によるメンテナンス性の向上、実験室・トイレのサニタリー性を向上させる床入隅のR加工。				-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保				5.0	0.50	-	-	
維持管理機能を向上させるため掃除用具入れを各階に設け、1Fに清掃用具室と管理倉庫を設置し、搬出等も容易に行える計画とした。				-	-	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.2	0.31	-	-	3.2
2.1 耐震・免震				3.4	0.48	-	-	
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				5.0	0.20	-	-	
免震構造の採用、大臣認定の取得				-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	

2.4	信頼性		3.4	0.19	-	-	-
	1	空調・換気設備	3.0	0.20	-	-	-
	2	給排水・衛生設備	4.0	0.20	-	-	-
	3	電気設備	3.0	0.20	-	-	-
	4	機械・配管支持方法	3.0	0.20	-	-	-
	5	通信・情報設備	4.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			4.1	0.29	-	-	4.1
3.1	空間のゆとり		4.6	0.31	-	-	-
	1	階高のゆとり	5.0	0.60	3.0	-	-
	2	空間の形状・自由さ	4.0	0.40	3.0	-	-
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.31	3.0	-	-
3.3 設備の更新性			4.0	0.38	-	-	-
	1	空調配管の更新性	設備バルコニー	4.0	0.17	-	-
	2	給排水管の更新性	設備バルコニー、PS	4.0	0.17	-	-
	3	電気配線の更新性	EPSを設置する事で、仕上材を痛めずに配線の更新、修繕が可能	5.0	0.11	-	-
	4	通信配線の更新性	EPSを設置する事で、仕上材を痛めずに配線の更新、修繕が可能	5.0	0.11	-	-
	5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
	6	バックアップスペース	予備スリーブを設ける事で建物機能を維持し、更新、修繕が可能	4.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	5.0	0.50	-	-	-
	3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1	建物の熱負荷抑制	PAL = 31.3%	4.8	0.30	-	-	4.8
2	自然エネルギー利用		4.0	0.20	-	-	4.0
	2.1	自然エネルギーの直接利用	トップライト、アトリウム自然換気	4.0	0.50	-	-
	2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電5.2kW	4.0	0.50	-	-
3	設備システムの高効率化	LEDの採用	5.0	0.30	-	-	5.0
	集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)		5.0				
	集合住宅の評価		3.0				
4	効率的運用		3.5	0.20	-	-	3.5
	4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	-
	4.2	運用管理体制	4.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.5
1 水資源保護			4.2	0.15	-	-	4.2
	1.1	節水	節水型便器	4.0	0.40	-	-
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		4.3	0.60	-	-
	1	雨水利用システム導入の有無	井水利用により全体給水量の20%以上を満たす	5.0	0.67	-	-
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			4.9	0.63	-	-	4.9
	2.1	材料使用量の削減	CSビーム工法(RC造(FC=36、F=390)+一部S造(F=325))によるロングスパン確保と躯体量削減	4.0	0.07	-	-
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	既存水櫃躯体を再利用	5.0	0.25	-	-
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	マットスラブに高炉セメントを使用	5.0	0.21	-	-
	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメント、タイル(屋外階段部分)、ビニル床材・点字紙	5.0	0.21	-	-
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	乾式間仕切りの採用	5.0	0.25	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	-	3.6
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	4品目について各メーカーの仕様書にて確認した。	5.0	0.32	-	-
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-
	1	消火剤		-	-	-	-
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮			4.3	0.33	-	-	4.3
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-
	2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
	3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-
	4	廃棄物処理負荷抑制	建物内からは生ごみを出さない運用を行い、ゴミも6種類に分別を行う。	5.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-
	1	騒音		3.0	1.00	-	-
	2	振動		-	-	-	-
	3	悪臭		-	-	-	-
	3.2	風害・砂塵・日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-
	3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの適合、屋外広告なし	5.0	0.70	-	-
	2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-